

## 豚流行性下痢(PED) Q&A (2014.4.11,2020.3.15)

### \* 豚流行性下痢とはどんな病気なんですか？

豚流行性下痢とは、コロナウイルスによる豚の伝染病です。  
日本では、家畜伝染病予防法という法律で、届出伝染病に指定されています。

### \* 感染経路は？

ウイルスが豚の口から体内に入って感染します。  
また、そのウイルスは腸管で増えて、糞の中に出てきます。  
そのウイルスを含んだ糞がいろいろなものにくっついて、また、豚の口に入ることで感染が続く伝染病です。

### \* 感染するとどうなるの？症状は？

症状は嘔吐・下痢症です。  
また、授乳中のお母さん豚では、母乳が出なくなってしまう。  
なので、症状が最も重篤になるのが10日齢以下の赤ちゃん子豚で、高い致死率となります。

### \* 治療はできるんですか？

抗生物質のような治療薬はありません。  
予防法として、感染する前にワクチンを打つことです。  
2～4週間お産前の妊娠間際の母豚に2回接種する必要があります。  
しかし、下痢の予防などはできず、大量のウイルスが感染するとワクチンの効果も低くなります。  
生まれた赤ちゃん子豚にワクチンを打っても、効果はありません。  
お産前のお母さん豚に適切にワクチン接種して、お母さんに免疫をつけ、  
そのお母さん豚の母乳を飲み続けることで赤ちゃん子豚を死亡から守ります。

### \* 感染拡大を防ぐには？

まずは、ウイルスを農場内に侵入させないことが第一です。  
そのため、農場では消毒、外部からのヒト、車、物資の進入の厳重に制限など、  
いろいろな防疫対策を取っています。これを農場バイオセキュリティと言います。  
しかし、万が一、ウイルスが農場内に侵入した場合でも病気の発生を抑えるために有効なのが、  
先ほど申しましたお母さん豚へのワクチンです。  
あるいは計画的自然感染(馴致)です。  
この計画的自然感染(馴致)を実行するためには、養豚獣医師の監督下で実行しましょう。  
そうしないと、逆効果となり、人為的に感染させてしまい、爆発的発生を招き、  
取り返しのつかない被害を被る場合があります。

### \* 人への感染は？影響は？

幸いなことに、人には伝染しません。  
人の健康への影響は全くありません。  
COVID-19とは全く別物です(2020.3.15 追記)。

### \* 豚肉は値上がりする？

すぐには、影響はないでしょうが、このまま国内の流行が続けば、また、米国でも昨年から流行拡大が依然続いていますから、豚肉が初夏から秋にかけて品薄になり、豚肉価格が上昇し、家庭の食費に影響してくることも考えられます。

#### **\*ワクチンが不足している？**

2013年3月までに、100万回分打てるワクチン(母豚50万頭の分娩前2回接種)が出荷されています。

また、2014年度は四半期毎に50万回分(母豚25万頭の分娩前2回接種)の計200万回分が出荷予定です。

母豚は国内に約90万頭ですので、徐々に不足は解消されつつあります。

※第1四半期(4~6月)は70万回分出荷予定(2014.22)